

NEW AGE 2024 04 vol.13 MEDICINE

Japanese College of Intravenous Therapy



点滴療法研究会

Interview

アリスどうぶつクリニック院長

廣田 順子先生

動物への栄養点滴

点滴・栄養療法 症例報告

高濃度ビタミンC点滴

医療法人社団貴正会 理事長 村上 正志先生

点滴療法の導入と実績

医療法人明貴会 山口歯科医院 理事長 山口 貴史先生

血液オゾン療法

鎌倉元氣クリニック 院長 松村 浩道先生

会員クリニックのご紹介

vol.9 アロリエクリニック

最新海外情報

開催
決定

リオルダンIVCアカデミー2024

interview

病気の治療や QOLの改善のための選択肢、 栄養療法や栄養点滴療法を 導入しませんか？



アリスどうぶつクリニック

院長 廣田 順子 先生

動物病院は全科診療が主体で、多くの症例を日常診察しております。

年齢別に病気を見ますと、3～6才頃までは皮膚病、アレルギー疾患、消化器疾患が多く、7才頃より慢性の疾患そして、がんが多くなります。

7才という年齢は動物種にもよりますが、人でいう40才前後に相当します。この年齢頃より、肥満、生活習慣病、肝臓病、心臓病、腎臓病、消化器疾患、糖尿病、椎間板・関節疾患、歯周病、多くの慢性の疾患が多くなり、最近多いのがんで、2頭に1頭はがんになると報告されております。

血液検査結果で問題ないのに、被毛がパサパサ、食欲の低下、元気がないという様な症状で来院する動物も多く、血液検査を分子栄養学的に解析すると多くの分子栄養素の低下の問題が見えてまいります。

その原因の多くはフードとおやつにあります。多くのフードはトウモロコシ、小麦などを原材料としている糖質過多のフードで、多くの病気の引き金と原因となります。

動物の健康維持に必要なのは、タンパク質の多い良質なフードです。犬・猫は原則肉食中心です。症例に適應する良質なフードを提案し、血液検査を栄養解析し不足が考えられる良質なサプリメントを与えます。それだけで改善する症例も多いのです。

慢性の病気及び、がんの症例に共通なのは、分子栄養素の低下でタンパク質、ビタミン、ミネラル類の低下が見られます。そのような症例にはさらにマイヤーズ・カクテル点滴療法を併用します。

動物の点滴療法は静脈と皮下にも行うことができます。静脈点滴は血管が細く脆い、小さな動物には長期間の点滴は難しいため、マイヤーズ・カクテルは皮下点滴を行うことが多く、アンチエイジング、QOLの改善や延命効果が期待されます。

がんの治療には、高濃度ビタミンC点滴療法、マイヤーズ・カクテル、オゾン療法をまず勧めます。そして糖質制限のフード、リポ・カプセルビタミンC、総合栄養剤、酸化ミネラル、EPA/DHA、食事療法と可能な範囲のサプリメントを提案します。

末期のがん症例の改善例を多く経験しており、動物医療にとっても有効な治療法になっています。

薬剤は対症療法、栄養は根本療法で病気の進行を止めて自らの細胞が回復するようにサポートする。それが栄養療法の根本的な考え方です。

動物への病気の治療やQOLの改善のための有効な選択肢である栄養療法や点滴療法を導入してみませんか？



当院の外観

参考書籍のご紹介 「愛犬の不調は糖質が原因だった!」



この本は分子栄養療法をもとに犬の食事について紹介した、おそらく日本で初めての本になると思います。ワンちゃんに毎日の食事を楽しんでもらいながら、いつまでも元気で長生きしてもらおう。飼い主さんの願を叶えるヒントをこの本では伝えたいと思います。

廣田先生ご講演・動画教材のご紹介

どうぶつへの 点滴療法・栄養療法を 臨床から学ぶ (合計110分)



Lecture

01

高濃度ビタミンC点滴療法

体に優しいがん治療。体に優しく今から
すぐできるがん治療を学びませんか？

高濃度ビタミンCは、天然の抗がん剤として働き、副作用がなく、QOLの改善を期待できます。最近のビタミンCの研究は、がんのみならず新型コロナウイルスを含むウイルス疾患、幹細胞の機能にも影響し、体の代謝に重要な働きを示す多くの研究報告があります。日常の動物の臨床では、がん治療はもとより、椎間板ヘルニア、関節疾患、皮膚疾患、消化器疾患など様々な疾患にその効果が注目されております。点滴療法の基礎よりご紹介いたします。

Lecture

03

CBDオイル

新しいサプリメントとしての基礎と使い方

CBDオイル(カンナビジオール)は麻より抽出される天然成分です。THCという神経に作用する成分は含まれていません。ヒトを含めた脊椎動物には内因性カンナビノイドを持ち、それを介して様々な機能を制御しています。CBDオイルは安全で、毒性がなく、強い抗酸化作用、抗がん作用、抗炎症作用、神経作用、免疫作用、アンチエイジングなどの作用を有します。当院では、てんかん、認知症、夜鳴き、徘徊、前庭疾患などの神経症状や関節・椎間板疾患、皮膚疾患、消化器疾患、各種のがんの補助治療等に使用しています。CBDオイルの臨床の基礎から症例を含めてご紹介いたします。

Lecture

02

マイヤーズ・カクテル点滴療法

がん治療から慢性疾患、さらに
アンチエイジングに有効な栄養点滴療法を
治療のメニューにプラスしませんか？

病気の動物は、体の分子レベルの栄養素が枯渇しています。病気の動物に高濃度のビタミンやミネラルを点滴し、血液中の栄養濃度を上昇させて栄養的效果と薬理学的効果を期待します。経口投与が出来ない動物は口からサプリメントを摂るよりも即効性がありかつ効果が高いため、病気で弱っている体にはとても効果があります。高濃度ビタミンC点滴療法に併用可能です。腫瘍の栄養補給や腫瘍の随伴症候群等による体力低下、さらに肝臓病、腎臓病、消化器疾患、皮膚病、脊椎・関節疾患等の慢性疾患、老齢疾患さらにアンチエイジングなど日常の多くの疾患に活用が可能な点滴療法です。

Lecture

04

オーソモレキュラー療法

様々な病気の予防・治療に

オーソモレキュラー栄養療法(orthomolecular medicine)は、「栄養療法」「分子栄養学」「分子整合栄養医学」とも称され、身体の細胞を構成する分子のバランスの乱れを栄養素を用いて本来の体の状態になるように整えていく治療方法です。自らの自然治癒力を高め、病気の進行を防ぎ、症状の改善を目的とします。さらに、病気の予防にも役立ちます。獣医医療ではなじみの少ない医療ですが、始めてみませんか？

お申し込み
方法

右のコードから、本会ウェブサイトのセミナー情報に
アクセスしお申し込みください。

※本動画・テキストのマスターズクラブ会員価格は15,000円(税込)です。



廣田 順子(アリスどうぶつクリニック 院長)

麻布獣医科大学(現在麻布大学)卒業。同大学助手、東京薬科大学女子部助手を経て東京農工大学研究生となり動物病院開業。開業後に自治医科大学法医学・人類遺伝学教室研究生となり研究成果により、獣医学博士取得。山崎学園(現在山崎動物看護大学)非常勤講師、帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科非常勤講師を経て、同大学教授に就任。その後日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科客員教授となる。現在は大学を退職しアリスどうぶつクリニックにて統合医療診療に携わっている。また、JAHVS(ホメオパシー・統合医療獣医師の会)の会長として、高濃度ビタミンC点滴療法、マイヤーズ・カクテルなどの点滴療法、オーソモレキュラー(分子整合栄養療法)、栄養療法セミナー等を実施している。高濃度ビタミンC点滴療法認定医、点滴療法研究会ボードメンバー

点滴・栄養療法 症例報告

高濃度ビタミンC点滴療法が教えてくれたこと ～ステージ4は末期ではない!?～



医療法人社団貴正会 (村上内科医院・
京都山科きぼうのクリニック・
仁王門診療所) 理事長

村上 正志 先生

京都府立医科大学卒業、医学博士

元京都府立医科大学客員講師

1982年に村上内科医院を開院し、開業医として働きながら基礎研究にも取り組み学位取得。

2008年より点滴療法研究会に所属し、多数の癌患者に高濃度ビタミンC点滴療法を行っている。なお現在は腹水が多く高濃度ビタミンC点滴療法が施行できない末期癌の方に対して腹腔内癌治療を行うことで、がんの進行を止めるべく日々治療に取り組んでいる。

また2024年4月より保険診療と高濃度ビタミンC点滴療法部門を長男に継承。

自身は近隣に新たに京都山科きぼうのクリニックを設立し、統合医療(腹腔内治療・レーザー治療、遺伝子治療・免疫治療)、抗加齢医療、点滴療法など幅広い視点で癌治療を提供している。

はじめに

医療の発展により、がん治療も一昔前に比べて選択肢が非常に増えました。それに伴い保険外診療を選択する方も増加しています。また検査の精度も年次高まり、早期発見され、治癒する癌も増えております。そのため今後点滴療法は保険治療との並行だけでなく、これらの癌の治癒後の予防投与という選択肢としても期待されます。点滴療法研究会では様々な高濃度ビタミンC点滴療法が奏功した症例を提示されておりますが、当院でも過去に非常に奏功した方がおられるため提示させていただきます。点滴療法研究会会員の皆様の今後の診療の一助になれば幸いです。

症例1

51歳女性

【病歴・経過】

平成20年7月に他院にて両側の乳房腫瘍(右5cm、左3cm)を指摘され、精査で両側乳癌と診断される。PET-CT検査を施行したところ両側の乳房以外に肝、脊椎などに集積を認め肝転移・多発骨転移(広範囲の転移を有するStageⅣ)と診断された。

同年8月より抗がん剤(アントラサイクリン系、タキサン系、アルキル化薬)での治療を開始。また同時期より当院へ受診され9月より高濃度ビタミンC点滴療法を開始した。(60gを週に2回)同年12月に乳房には視診にて病変部に一致した軽度の陥凹を認め、触診でも腫瘤を疑う硬結は触知しなくなっていた。また同時期に施行したPET-CTでは両側の乳癌は消失しており、肝転移巣、骨転移巣に関しても集積を認めなかった。腫瘍マーカーは元々CA15-3のみ129(単位)と高値であったが、抗がん剤と高濃度ビタミンC点滴療法の併用により治療開始から約5か月で正常範囲に改善。その後も高濃度ビタミンC点滴療法を2-3週に1回、化学療法(タキサン系、アルキル化薬)を継続し概ね正常範囲を保つことができた。平成22年7月時点で特に再発なく経過していたがその後ご本人の転居に伴い当院での治療も終了となった。

考察

本症例に投与したビタミンCの投与量としては点滴で60gを週に2回に加え、内服で毎日4gであり、標準的な点滴療法の癌治療を基本的な治療に準じて行いました。現在の一般的ながん治療において治癒が困難と考えられたものの、ビタミンCを併用することで無増悪期間が少なくとも2年を超えた貴重な症例です。

本症例では予後が非常に厳しいと予測されており、多くの終末期癌患者の診療に携わってきた私からみても予後は半年程度ではと考えていました。しかしご本人は非常に目力もあり治療に前向きに取り組まれました。治療開始時には骨転移巣による疼痛のため腰を曲げながら必死に通院されたことが今でも思い出されます。それが高濃度ビタミンC点滴療法開始してからわずか3か月後にはPET-CTで殆ど癌の集積が認められなくなっていました。

乳腺外科の担当医も「PET-CTの所見を額縁に入れておきなさい」というほど驚く治療効果に、高濃度ビタミンC点滴療法を導入して間もない私は非常に感銘を受けました。ステージ4と聞くとすぐに終末期ケアを勧める方も多いと思いますが、患者さんは皆少しでも長く元気に生きたいと考えます。そんな時こそ私たち点滴療法研究会のメンバーの出番です。

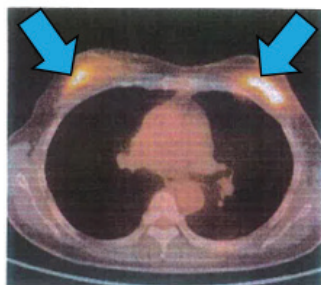
終わりに

本症例を皮切りに多くの患者さんにビタミンC点滴を行って参りましたが、気づけば点滴療法研究会発足時より参加しており、今年で早くも16年になります。

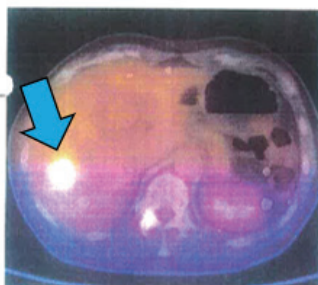
本症例から私のがん患者に対する研究が本格的に始まり、現在は多角的視点から治療を展開する統合医療を行っています。主に点滴療法としては、がん患者の本来持っている免疫力・抗酸化力を高める体に優しい治療を提供しています。がんは活性酸素による細胞やDNA損傷により発生すると考えられています。免疫力・抗酸化力を高めることで活性酸素の発生を抑えることができ、これらの損傷を予防できるためがんの発生や治療に有効と言われています。高濃度ビタミンC点滴療法を含めた色々な治療を組み合わせながらの方でも健康に永く生きられる方法をいつも追求しています。

ステージ4の癌は末期癌ですが、まだ栄養点滴をして体力さえあれば抗癌剤治療ができます。決して、終末期癌(余命2~3週で寝返りもできない状態)ではありません。終末期癌の状態になるまでは、治療は可能(特に栄養点滴、VC点滴等)と思います。患者とその家族が望まれるなら、諦めずに、治療をしてあげたいと思います。

治療前



両側乳房に集積あり

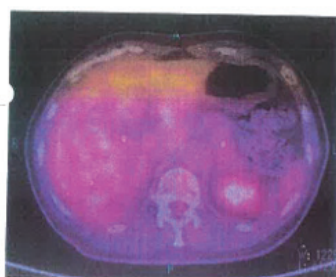
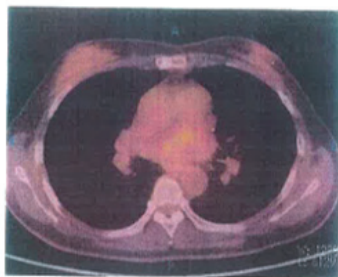


肝臓に集積あり



脊椎に集積あり

治療後



乳房、肝臓、脊椎への集積が全て消失

点滴・栄養療法 症例報告

医療法人明貴会における点滴療法の導入と実績



医療法人明貴会 山口歯科医院 理事長

山口 貴史 先生

【経歴】

1982年:大阪歯科大学卒業 歯科医師
1992年:同 歯学博士
1985年:山口歯科医院開業。
2006年:日本口腔インプラント学会 専門医
2010年:日本抗加齢医学会 専門医
2013年:国際口腔インプラント学会 専門医
ドイツ口腔インプラント学会JD 専門医

【著書】

「インプラント治療のすべてがわかる本」、「気が付けば、突然あなたは若返る!!」

【論文】

インプラント体周囲骨欠損の新生骨形成過程におけるβ-TCP及び多血小板血漿{PRP}の影響。
Rigid augmentation of the maxillary sinus by autologous PRP and born. 等

抄録

医療法人明貴会は、1985年に京都にて山口歯科医院として開業しました。インプラント治療に力を入れながら一般歯科診療、通院が難しくなった患者様に対する歯科訪問診療を行っています。30年以上にわたり、臨床を行っている歯科医院が、2017年より点滴療法を導入しました。歯科医院における点滴療法の導入の経緯と実績、点滴療法を用いた症例について報告します。

経緯

インプラント治療とは、歯周病や事故などにより、歯を失った際、顎骨に人工歯根(インプラント・フィクスチャー)を外科的に埋入、骨との結合を待って人工の歯(上部構造)を製作、装着する、欠損補綴治療の一種です。

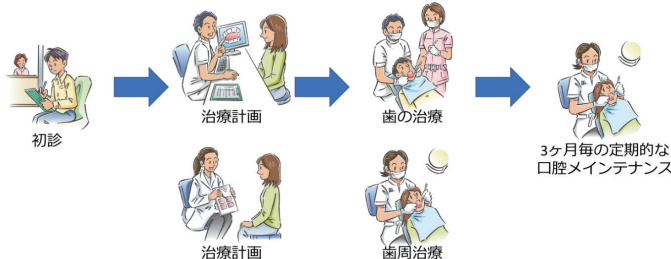
医療法人明貴会においては、1990年以來3500以上のインプラント治療症例を手掛けてきました。インプラント治療には、歯肉の切開、顎骨の削合などの外科処置が不可欠であり、術後の炎症の減退を目的として、点滴療法を導入しました。

また、高度に顎骨が吸収した症例に関しては、人工骨移植および自家血の多血小板血漿(PRP)移植など、顎骨の再生療法の併用があり、再生療法の補助として、点滴療法を導入しました。術後の炎症に伴い、下顎神経麻痺などの神経症状が生じる可能性もあり、その予防と治療にも有効と考えています。

その他、歯周病治療、全身の健康状態・免疫状態の向上による口腔内の感染予防・治癒促進など、口腔の健康を目的とした点滴療法と、それに付随した検査を、合法的に導入しました。

図1

歯科衛生管理に基づいた 自費診療システムの確立 MTP (メディカルトリートメントプロトコル)



医療法人明貴会における点滴療法のプロトコル

歯科医院において、点滴療法を導入するのはインプラント治療などの、外科処置と併用するのが効果的と考えます。医療法人明貴会においての点滴療法について、インプラント治療の流れに沿ってお伝えします。インプラント治療は大きく分けて、1)術前処置、2)外科処置、3)補綴処置、4)メンテナンス管理の4期に分かれます。

1)術前処置

むし歯治療、歯周病治療、抜歯などをおこない、口腔内の感染源を除去し、外科処置のための準備をします。この時期に、口腔内の感染予防・治

癒促進を目的とした、高濃度ビタミンC点滴を行います。

2)外科処置

顎骨を削合しインプラント体埋入や歯周病等により、減少した顎骨を再成する手術を行います。外科手術の術前、術中、術後に外科処置後の炎症の治癒、感染予防を目的とし高濃度ビタミンC点滴を行います。

3)補綴処置

印象(型どり)などを行い、人工の歯(上部構造)を製作、装着します。

4)メンテナンス管理

定期的(3ヶ月毎)に来院、歯科衛生士による専門的な口腔内クリーニング、口腔衛生指導(OHI)、咬合状態の確認などを行います。

定期的な来院時に、全身の健康状態・免疫状態の向上による口腔内の感染予防の為高濃度ビタミンC点滴やマイヤーズカクテルによる点滴療法を行います。

以上のようなプロトコルに基づいて、点滴療法を導入しました。

医療法人明貴会において、**歯科医院にも関わらず、点滴療法がスムーズに導入できたのは、我々の診療システムであるMTP(メディカルトリートメントプロトコル)によるところが大きいと考えます。**

MTPとは、我々の診療理念「最良の歯科医療の提供を通じ患者様の生涯の健康に貢献する。」を具現化するためのシステムです。歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士・歯科助手・TC(トリートメントコーディネーター)・各専門医など、クリニック全員が協調して一人の患者さまの診療にあたる、医療法人明貴会独自のチーム医療のシステムです。MTPの流れを図1(左ページ)にて示します。

治療計画の段階で、Drが自費診療(点滴療法含む)の説明も行いTCが予算、支払方法その他諸々の相談を行います。医療法人明貴会ではインプラント治療などの口腔外科手術時に、抗生剤点滴及び静脈内鎮静を行っていました。そのため点滴療法を取り入れやすい素状はあったと思います。

歯科クリニックにおける点滴療法の導入の際に、習熟したいポイントは3つあります。

1)知識

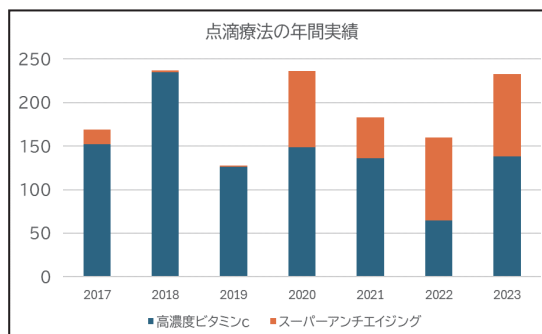
点滴療法の効果は、口腔の健康のために行っており、全身的な効果は副次的な物である。また、エビデンスに基づいた効果を伝える。院内での価格や点滴の時間を周知してもらう事も大事な事です。

2)準備

薬剤機材の準備、点滴手技をマスターする、留置針など感染性廃棄物の取り扱いにも注意。

3)トラブル対応

低血糖、血管痛、貧血など予想できるトラブルとその対応や衣服を汚した場合の謝罪と対応を院内で周知徹底しておく。また、トラブルの情報共有は非常に重要です。チェアサイドで発生したイレギュラーな事象は、インカムを通して院内のスタッフ全員で即時に情報共有するシステムとなっています。



年代	性別	VC	運動	喫煙	痛み	感染	炎症	腫脹	治療過程			体感
									SP時	抜糸時	その後	
60代	男性	両方	あり	なし	2	なし	2	2	3	2	1	腫つきが良い
80代	女性	両方	あり	なし	0	なし	1	1	1	1	1	特になし
60代	女性	両方	あり	なし	5	なし	5	5	3	4	1	特になし
70代	女性	リガC	なし	なし	0	なし	1	1	2	2	1	特になし
50代	女性	両方	なし	なし	3	なし	1	2	2	2	2	肌のハリが出てきた気がする
50代	女性	両方	あり	なし	1	なし	1	1	2	1	1	ずっさりした感じがした
70代	女性	リガC	なし	なし	0	なし	1	2	1	1	1	やや倦怠感
70代	女性	リガC	なし	なし	0	なし	1	1	1	1	1	調子いいので続けて飲んでいる
50代	女性	両方	なし	なし	1	なし	2	2	3	1	1	特になし
50代	男性	VC点滴	あり	なし	1	なし	2	2	2	2	1	特になし
40代	男性	VC点滴	なし	なし	0	なし	1	1	1	1	1	特になし
60代	女性	VC点滴	なし	なし	2	なし	3	3	2	2	1	とりあえず調子が良い
70代	女性	リガC	なし	なし	1	なし	1	1	1	1	1	とりあえず調子が良い

(アンケート期間は2022年12月~2023年2月)

点滴療法およびビタミンCサプリメント服用者、かつインプラント手術を受ける患者にアンケートを行った。術後の感染は皆無、反応性の炎症がやや強く出た例も一例だけであり、1週間後の経過観察では炎症は消退し治癒の状態は良好であった。体感に関しては、半数の方が良くなったと感じた。ネガティブなコメントは一例だけであった。

症例1

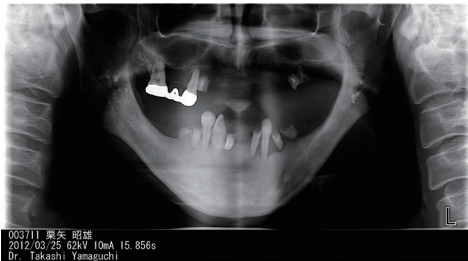
欠損歯が多く、咬合が崩壊した口腔に対して、全顎的な骨造成術およびインプラント治療と点滴療法を行った症例

患者 K.A.男性
初診日 2012年3月25日(初診時:48歳)
主訴 歯が取れた
既往歴 心臓カテーテル手術(2010年手術)
上顎洞底挙上術及び歯槽骨造成術を併用した全顎的インプラント症

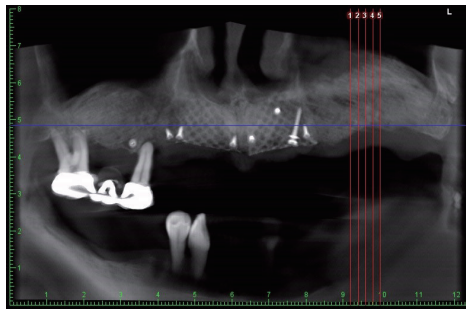
術前

写真①のように咬合は崩壊、残存歯で保存できる歯牙はなかった。上顎歯槽骨も高度に吸収し上顎洞底は下方に進展しており、このままではインプラント治療はもとより義歯制作も困難な状態であった。(写真①)

インプラント治療を可能にするためには母床となる歯槽骨の造成が必要となる、左右両側の上顎洞底挙上術及び上顎前歯部にはチタンメッシュで造成すべき歯槽を形成し骨造成を行った。(写真②)

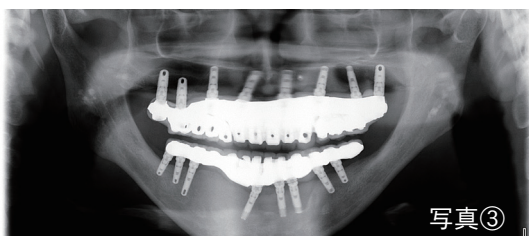


写真①



写真②

移植材料は β -TCP(オスフェリオンG1)及び自己血PRPの混合物を使用した。骨造成の後上下顎に各8本ずつインプラントを埋入し上部構造を装着した。(写真③)



写真③

この患者は咬合崩壊した状態から始まり、咬合の安定、咀嚼機能の回復、審美性の改善も行った。術後の口腔衛生管理も、患者自身によるセルフケアと、歯科衛生士によるプロのケアの両輪により、クリーンな状態を保っている。このような劇的に改善した患者様には、元の審美咬合が崩壊し機能不全の状態に戻って貰いたくないとの気持ちが、我々にも大きい。

しかしインプラント周囲炎は、急速に進行する事もあり、進行のスピードは歯周病の3倍から10倍以上になることもある。これはインプラントと天然歯の付着形式の違いによるものである。天然歯は歯根膜を介して歯槽骨に付着しているが、インプラントは歯槽骨と直接結合(Osseointegration)している為、感染症の炎症が起きると急速な骨吸収を招いてしまう。

インプラント周囲炎は先ず起こさないことが肝要であり、発症した場合は速やかにインプラント周囲炎の処置をしなければいけない。そのためインプラント治療後には、2~3ヶ月毎の定期健診及びメンテナンス管理が不可欠である。全身の免疫、健康の向上を考えリポソーム化されたビタミンCを1日3g内服と、2ヶ月毎に高濃度ビタミンC点滴25gをインプラントメンテナンス時行っている。

顔貌写真の変遷を見てもらってご理解いただけるように、最初とは比べ物にならず、肌つや顔色も近年さらに良くなっている。(写真④)

インプラント周囲炎も、発症せずまったく安定している。ビタミンC点滴療法による、老化治療すなわち免疫の賦活、健康効果は、この症例の長期安定に寄与している。



術前(48歳) 術後(49歳) 術後8年(56歳)

写真④

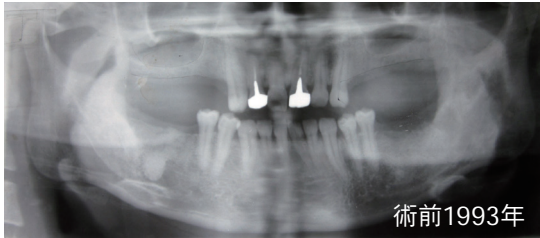
全体結論

点滴療法が口腔内の疾患予防に対して、安全で有効な治療法であり、それを通じ生涯の健康に貢献できると考えられる。これは我々の診療理念に合うものである。今後、全国歯科医院においても、点滴療法の導入が広まることを期待しています。

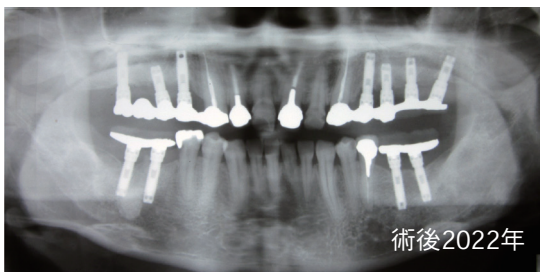
症例2

上顎洞底挙上術(上顎洞に対する骨増生手術)及びインプラント治療の術後30年経過症例に対して、定期的な点滴療法を7年間継続中の症例

患者 T.I.男性
初診日 1993年12月18日(初診時:29歳)
主訴 歯がなくて噛めない
既往歴 なし



術前1993年



術後2022年

2017年から2024年:メインテナンス管理時2ヶ月おきに、ビタミンC+マイヤーズカクテル点滴。リポソーム化されたビタミンCは一日3g内服を行っている。

インプラント周囲歯槽骨はインプラント周囲炎を起こすこともなく安定。上顎洞底挙上術(上顎洞に対する骨増生手術)後の新生骨も、上顎洞底にあたる部分の骨が皮質骨様に見えるようになり、骨質の向上が観察できる。

まとめ

歯科クリニックである医療法人明貴会において、点滴療法が進んだ要因を3つ挙げます。

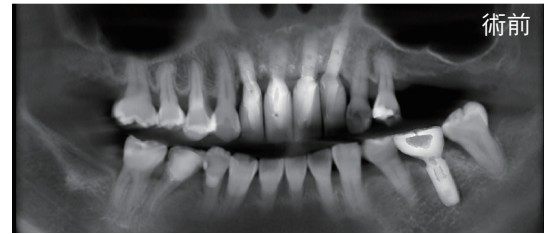
1)口腔衛生管理に基づいた自費診療システム、MTPが確立されていたこと。

2)口腔衛生管理の為、定期的に来院するメインテナンス患者数が年間1万5000件に上ること。

ちなみに当院では、MTPを受け入れて、定期的にメインテナンスに訪れる患者をクライアントと呼ぶ。急性症状の消退のためだけに、来院する患者をペイシェントと呼び区別をしている。年間1万5000件来院するクライアントを、常勤歯科衛生士が担当シラポールを築いている。又、**歯科衛生士のアンチエイジングへの意識も高く生活習慣、栄養(サプリによる補助的な物を含む)の指導の流れで点滴療法の紹介も行う。**

症例3

術前術後に点滴療法を併用したサイナスリフト(上顎洞底挙上術)症例



術前



術後

術前クリーニング(1週間前)、手術時、手術翌日に25gの高濃度ビタミンC点滴を3回行った。術後2日、通常なら最も炎症反応が強く出るタイミングであるが、非常に治癒がスムーズで発赤腫脹も殆ど見られない。



◀ 術後1日目の口腔内写真

点滴療法を行わず上顎洞底挙上術を行った別の症例の術後1日目の写真(▶)と比較する。私の手術が上手くなったから炎症が抑えられたのかと考えたが、**点滴療法を行わない同様のケースでは炎症が強く出ていた。**



3)Dr、スタッフにも点滴療法を行い院内全体が点滴療法について良く知るようにしていること。

またスタッフのほぼ全員がリポソーム化されたビタミンCを内服しており、スタッフに関しては体調の良好さを感じておりそれが内服を続ける理由となっている。

点滴療法に関してもDrやスタッフ自身が体験し効果を実感している。しかし、20代30代の若い人達は元々元気なので、点滴療法までは必要性を感じないようである。ただ、患者様に対してはDrやスタッフが自ら、点滴療法を経験していることが説得力に繋がると考えます。そのうえ、スタッフに対する点滴療法は福利厚生の一環もかねていて、スタッフからは好評を得ている。

大量自家血液オゾン療法により 症状の改善がみられた 難治性眩暈症の1例

※New age Medicine Vol.4 より再掲



鎌倉元氣クリニック 院長
点滴療法研究会マスターズクラブ 副会長

松村 浩道 先生

日本医科大学卒業。同大学付属病院麻酔科学教室、関東通信病院(現NTT東日本関東病院)ペインクリニック科、医療法人誠之会氏家病院麻酔科・精神科等を経て2017年10月よりスピッククリニック(鎌倉元氣クリニック)院長。全人的な医療を志す過程で東洋医学、精神医学、温泉医学、オーソモレキュラー医学や補完代替医療の研鑽を深め、現在は心身相関・腸内環境を重視した包括的診療を行うほか、産業医としてストレスマネジメントや予防医療にも力を注いでいる。

<資格・役職>

ペインクリニック専門医・認定産業医・温泉療法医、日本医療・環境オゾン学会副会長・同臨床研究部会長、点滴療法研究会ボードメンバー、米国ストレス研究所日本支部代表、一般社団法人日本レジリエンス医学研究所代表理事、一般社団法人メンタルウェルネストレーニング協会顧問

<著作>

「対人関係のイライラは医学的に9割解消できる」(マイナビ新書)、「脳腸相関で未病を征す」(七星出版)

【はじめに】

眩暈症は臨床の現場でも比較的多くみられるが、一般的に眩暈症は末梢前庭性が多く、全眩暈の約 60%を占めるといわれる。今回、大量自家血液オゾン療法 (Major Autohemotherapy : MAH) により症状の改善がみられた難治性末梢前庭性眩暈を経験したので報告する。

症例 70歳 女性

主訴：

回転性眩暈、歩行時の浮動性眩暈

既往歴：

糖尿病、白血球減少症、陳旧性脳梗塞

家族歴：

父 高血圧症、脳卒中

現病歴：

2019年2月2日、眩暈と嘔気があり近医脳神経外科受診。入院精査したところ、良性発作性頭位眩暈症及びメニエール病の疑いにてジフェニドール塩酸塩およびアデノシン三リン酸二ナトリウム水和物顆粒が開始となったが、退院後2週間以上経過しても症状が変わらないため、同年2月25日当院受診となった。

経過：

G6PD 検査で問題がないことを確認し、血液 100ml に対して 20 μ g/ml のオゾン酸素混合ガス 100ml を用いる MAH を週に 1 回実施したところ、同年 3 月には歩行時のふらつきがほぼ消失したが、臥位での回転性眩暈は残存した。同年 4 月には回転性眩暈も改善傾向を示したため、治療頻度を 2 週間に 1 回に減らし MAH を継続した。その後、オゾン総量を 2500 μ g まで漸増し、月に 1 回の継続実施としたところ、同年 8 月には眩暈は完全に消失したが、患者が再発予防・健康増進目的での治療継続を希望したため、現在も月に 1 回の MAH を継続している。

考察：

眩暈症の中で最も多いのは良性発作性頭位眩暈症 (benign paroxysmal positional vertigo, BPPV) で、同症では内耳の耳石が剥がれ落ち、それが三半規管を刺激して眩暈が起こるとされる。通常、眩暈の持続時間は 1 分以内であり、特に治療をしなくても数日から 2 週間程度で軽快することが多いが、中には本症例のように難治性で 1 ヶ月以上症状が続く場合もある。一方、メニエール病は内耳の内リンパ水腫によって症状がおこるとされるが、眩暈を悪化させる因子として、ストレスや睡眠不足、過労が考えられている。こうした因子により内耳の水腫が増悪し耳石が剥がれやすくなることで、BPPV を併発することもある。本症例は、発作持続時間が比較的に長いなどの臨床症状から、前医での診断通り、BPPV にメニエール病を併発していた可能性があるが、前医での薬物療法は無効であった。オゾン療法について、Menéndez らは、末梢性前庭症状を呈する患者 50 人を対象にオゾンガス局注（濃度 20mg/L、5ml のオゾンガスを、頸椎 C2-C3 領域に対応する傍脊椎筋に局注）を実施し、眩暈・難聴・耳鳴り・眼振が、それぞれ 90%・80%・65%・100%改善したことを報告した 1)。ほかにも、オゾン療法が末梢前庭性眩暈やメニエール病に対して有効だったとする報告はいくつか散見されるが、MAH による治療報告はない。

メニエール病では、抗酸化力が低下しているほか、酸化ストレスが内リンパ水腫の発症に関与していること、細胞の損傷やアポトーシスによる細胞死が聴覚障害の一因であることが示唆されているが 2)、MAH には、2,3-DPG 増加による組織への酸素供給の改善、細胞内抗酸化防御システムの増強、免疫系の活性化、NO 調節による血管拡張などの作用があることがわかっており、本症例においてはこれらの機序により症状が改善した可能性がある。

まとめ：

MAH により症状の改善がみられた難治性眩暈症を報告した。適正な方法で実施する限りにおいて安全な治療法である MAH は、末梢前庭性眩暈の治療として検討する価値があると考ええる。

- 1) Menéndez S, et al. Application of ozone therapy in the vestibulocochlear syndrome. Rev Recent Clin Trials. 2012 Nov;7(4):321-8.
- 2) Raponi G, et al. The role of free radicals and plasmatic antioxidant in Ménière's syndrome. Int Tinnitus J 2003; 9 (2): 104-8.

オゾン療法
認定医
のご案内



点滴療法研究会マスターズクラブ 会員限定

オンライン
受講・受験

オゾン療法
認定医講習会・認定医試験

試験日

2024 年
8 月 25 日 (日)

オンライン受講期間

7 月 24 日 (水) ~ 8 月 24 日 (土) ※配信期間中何度でも視聴可能



点滴療法研究会マスターズクラブ副会長
鎌倉元氣クリニック院長 松村 浩道先生



点滴療法研究会マスターズクラブ会長
柳澤 厚生先生



点滴療法研究会 特別セミナー

Riordan IVC Academy

リオルダン IVCアカデミー 2024

逐次通訳

世界的権威から学ぶ高濃度ビタミンC点滴療法の最新トピックス
高濃度ビタミンCの聖地、リオルダンクリニックより
ロナルド・ハニハイキ先生、トーマス・レヴィ先生来日決定!

2024 **9.29** SUN

会場: シティホール&ギャラリー五反田(東京)

豪華講師陣



ロナルド・ハニハイキ
(リオルダンクリニック 所長)

1976年カンザス大学医学部卒業、レジデントプログラム修了後はカンザス市の家庭医として地域医療に携わる。1989年に国際人間機能改善センター(2010年にリオルダン・クリニックに改称)の臨床部門の主任に迎えられ、創立者でビタミンC点滴療法の世界的権威である故ヒュー・リオルダン氏の下で分子整合医学や統合医療を学び、患者の治療に携わる。リオルダン氏の亡き後は後継者としてセンターを運営。米国ホリスティック医学協会認定専門医、カンザス家庭医協会会員、カンザス医師会会員。



トーマス・レヴィ
(リオルダンクリニック コンサルタント・心臓専門医・弁護士)

1972年Johns Hopkins 大学卒、1976年Tulane 医科大学卒、Tulane 大学関連病院で研修。その後、同大学関連病院に循環器専門の特別研究員として従事。Tulane 医科大学で准教授を務める。心臓専門医と弁護士の資格を保有。アメリカ心臓学会(American College of Cardiology)フェロー。

リオルダンクリニックとは



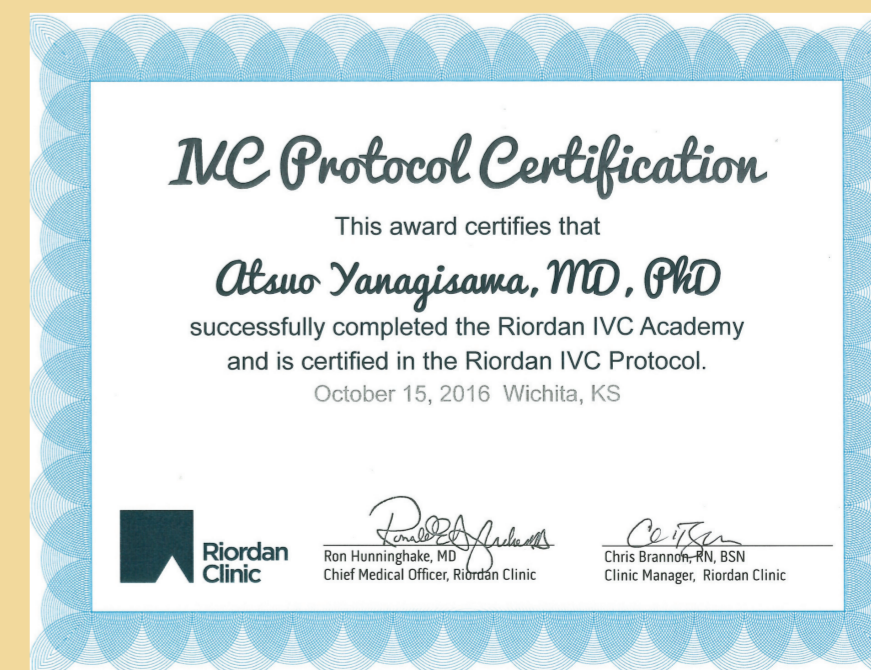
リオルダンクリニックは、米国カンザス州にあるビタミンC点滴療法の世界的権威である、故ヒュー・リオルダン博士によって設立された施設です。アメリカ国内におけるオーソモレキュラー医学の発展に大きく貢献しています。ビタミンC点滴のプロトコルは、リオルダンクリニックの手順に基づいて作成されています。



柳澤 厚生会長よりコメント



ビタミンC点滴を導入されている、あるいはこれから学びたい医師・歯科医師・獣医師の先生方にビッグニュースです。ビタミンC点滴の基本から最新アップデートまで、IVCの必須情報を世界的権威から学ぶことができるリオルダンIVCアカデミーが、日本で開催されることになりました。以前は世界各国で開催されていたリオルダンIVCアカデミーですが、コロナのパンデミックにより一時開催を中止していました。今回、パンデミック後はじめてのアカデミーを、世界に先駆けて日本で開催します。講師は、私の師匠であり友人であるハニハイキ先生とレヴィ先生です。世界的なプログラムを、日本にしながら、言語の心配なく受講できる、またとない機会です。ぜひ今から日程を確保してください。



参加者にはリオルダンクリニックより修了証が授与されます。

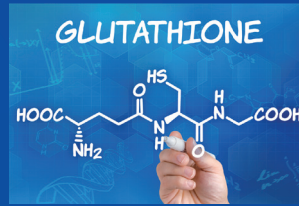
最新海外医学情報 PICK UP NEWS

認知症の1割で誤診。実は肝性脳症

2024年1月に発表された米国の研究によると、認知症と診断された人の10%が、実は肝性脳症(HE)であったと報告されました。肝性脳症の症状として睡眠パターンの変化やいらつき、物忘れや錯乱などが現れることから、認知症の一般的な症状と誤認されたと考えられます。

HEが見逃された場合、悪化すると昏睡を引き起こし死に至ることもあることから、認知症が疑われる患者において、HEの可能性を検証する必要性が示唆されています。同時に、いずれの疾患においてもグルタチオン点滴が有益であると考えられることから、診断が確定していない場合も含め点滴療法を第一選択肢として検討することが可能です。

Bajaj JS, et al. Undiagnosed Cirrhosis and Hepatic Encephalopathy in a National Cohort of Veterans with Dementia. *JAMA Network Open*. 2024;7(1):e2353965.



食事制限による脳の老化防止の関連因子が明らかに

近年の研究で、カロリー制限が健康増進や寿命延伸に貢献することが報告されてきましたが、その理由や作用機序は判っていませんでした。

今回1月に発表された研究では、食事制限によってOXR1(Oxidative Resistance 1)という遺伝子が活性化し、神経保護を媒介するニューロン特異的反応が発見されました。この遺伝子は、酸化防止の働きをもち、老化や神経疾患から身を守る重要な脳の回復因子であると考えられています。また、OXR1は、レトロマー(細胞内のタンパク質と脂質をリサイクルするのに必要なタンパク質群)に影響を及ぼすことも分かりました。

レトロマーの機能不全はアルツハイマー病やパーキンソン病といった神経変性疾患と関連しており、カロリー制限によってこれらの疾患が抑制される理由であると考えられます。このような研究が進むことで、高齢化により脳神経疾患が国民病になりつつある日本において、食事の重要性が再度見直されることを期待します。

Wilson KA, Bar S, Dammer EB, et al. OXR1 maintains the retromer to delay brain aging under dietary restriction. *Nature Communications*. 2024;15(1):467.

世界にショックを与えたマイクロプラスチック

10のペットボトル飲料に、25万ものマイクロプラスチックが含まれているというニュースが、今年1月に世界中に衝撃を与えました。目に見えない微小なプラスチック片が、容器などから飲料や食品内に溶け出していることは今までも知られていましたが、コロンビア大学の研究チームによって実際の量が初めて明らかになりました。マイクロプラスチックよりも更に小さなナノプラスチックは、腸や肺を通過して直接血流に入り、そこから心臓や脳を含む全身の臓器に移動することが分かっています。また、胎盤を通過して胎児の体内にも侵入します。マイクロプラスチックへの暴露は、酸化ストレス、慢性炎症、代謝障害、免疫反応、神経毒性、生殖・発達毒性など、さまざまな毒性を引き起こすと考えられています。近年は環境保護などの観点からプラスチックを減らす動きもありますが、まずは私たちの健康の観点から、日々の生活におけるプラスチックの使用を考え直す必要がありそうです。



Berger, S. "Bottled Water Can Contain Hundreds of Thousands of Nanoplastics." *Columbia Uni. Mailman School of Public Health*, Jan 2024.

英: コロナ禍で50代以上の脳機能が著しく低下

コロナ禍前後で50代以上の英国人約3,000人の脳機能を調べた結果、認知機能や記憶力などの脳機能の指標が著しく低下したとBBCなどが報道しました。この結果は、コロナ感染の有無とは関連性がなく、活動制限や日常生活の混乱などによるストレス、孤独感、アルコール摂取などに起因している可能性が示唆されています。感染と直接的に関係していない、パンデミックの長期的な影響が明らかになってきています。また、このような影響は、日本でも今後おそらく顕在化してくるでしょう。世界的な認知症患者の増加が懸念される中で、栄養医学を含む予防・治療の重要性がさらに増していくことが予想されます。

BBC News www.bbc.com/news/health-67272152

2024年3月 春の特別セミナー

開催報告

明日から臨床現場に導入できる 最強のアンチエイジング医学



セミナー
コーディネーター
点滴療法研究会
マスターズクラブ会長
柳澤 厚生 先生

この度、春の特別セミナーとして2024年3月17日に「最強のアンチエイジング医学2024」を開催いたしました。100名を超える先生方にお越しいただき、展示企業は23社と大盛況のセミナーとなりました。
今回、改めて講演内容の概要をご紹介します。また、当日で参加できなかった会員様のご要望にお応えして、講演動画の販売を開始しました。ぜひこの機会にご活用ください。

豪華エキスパート陣によるご講演

ミトコンドリア

人生を二度三度楽しめる 細胞復活法

医療法人社団友徳発心会
ひめのともみクリニック 院長

姫野 友美先生

老化とは、年をとるにつれて細胞が変質し、機能が衰えることである。中でもアンチエイジングにとって重要なのは、ミトコンドリア機能の改善で、そのために必要な事は①栄養②抗酸化③デトックス④腸内環境の改善である。今回、栄養療法、点滴療法、キレーション療法などの組み合わせにより、病状の改善のみならず、QOLの向上がみられ、諦めていた人生の楽しみを取り戻すことのできた症例を報告する。

幹細胞培養上清

幹細胞培養上清療法 導入と実践

N2クリニック
ホテル椿山荘東京院 院長

野村 紘史先生

幹細胞培養上清は幹細胞が分泌するエクソソームやサイトカインによるパラクライン効果を応用し、細胞を用いないcell free therapyの担い手として期待されている。幹細胞培養上清療法を導入する際に必要な基礎知識、製剤の選択、適応疾患や実践的な治療プロトコルなどを症例も供覧しつつ解説する。

基調
講演

エクソソーム

エクソソームの医療革命

東京医科大学医学総合研究所
未来医療研究センター
分子細胞治療研究部門 特任教授 落谷 孝広先生
細胞外小胞であるエクソソームの存在は、基礎研究のみならず、疾患の診断や治療に大きく貢献しようとしている。本講演では、エクソソームの研究の歴史から、現在の研究の隆盛に至るまでの過程を振り返ると共に、今後、再生医療などにどのように貢献するか、その展望と世界の最新のエクソソーム研究の現状をご紹介します。

NMN/NAD+

NMN点滴とNAD+点滴 について(臨床)

銀座予防医療クリニック 院長
一般社団法人国際予防医療協会
代表理事、医学博士

青木 竜弥先生



NMN点滴とNAD+点滴について、臨床現場で実際に行っている治療法について解説する。作成法、投与方法、注意点、副作用など実践に即してお話するのですぐに使える内容となっている。クリニックで実際に行っている事例も紹介し、その効果や注意点についても解説する。これらの点滴が今後の先生方の治療の一助となれば幸いである。

ウォートンジェリー

ヒト臍帯ウォートンジェリー(WJ)幹細胞由来 エクソソームの臨床 (内科、歯科)

東海大学医学部客員教授、医道
メディカル細胞培養センター管理
者、高輪クリニックグループ代
表、医学博士、医師、歯科医師

陰山 泰成先生



①WJエクソソーム臨床:エクソソームの国際基準、エクソソームの質評価、エクソソーム種による長所短所、アンチエイジング用WJエクソソーム臨床の実際、歯科2種再生医療とWJエクソソーム歯科臨床、効果評価マーカー、副作用、禁忌について
②エクソソーム研究:植物エクソソーム、バクテリアエクソソーム、漢方エクソソーム研究報告。具体的な適応、投与方法、投与量、投与期間などを明示。患者様が来院時にWJエクソソームを効果的に、安全に投与を開始できるよう実践的な情報を提供する。

今回ご参加いただけなかった先生にもご視聴いただきたい内容ですので、ぜひ動画サイト(QRコード)をご覧ください! ▶▶

満足度 99%※ 会場は盛り上がりました!

※アンケート集計結果

100名以上の先生方にご参加いただきました



座長は点滴療法研究会
ボードメンバーの田中善先生
点滴療法研究会会長
柳澤厚生先生



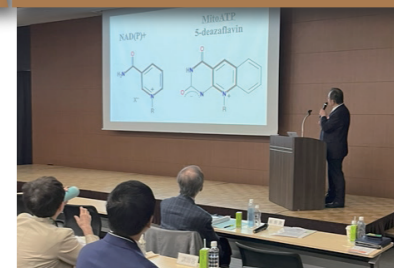
23社の企業様にご出展いただき
大盛況でした



ランチョンセミナー
オーガニックサイエンス株式会社様



ランチョンセミナー
株式会社アイダンプロダクツジャパン様



座長・講師・副会長の先生方

ご参加いただいた皆様の声を一部ご紹介

- ✓ 興味深い内容で楽しみにしていました。期待以上の内容でとても勉強になりました。
- ✓ 刺激的内容に興味が冷めやらず、もっと勉強し、実践したいと思いました。
- ✓ 現地参加してよかったです。直接質問できたので満足です。
- ✓ セミナー内容はもちろんのこと、各企業とお話する時間も非常に有意義でした。

動画サイトで配信中!

最強のアンチエイジング医学 2024

培養上清、エクソソーム、NMN・NAD+など
今注目の最先端医学を
明日から導入できる実践的な内容で紹介



※落谷先生の講演動画はございません。ご了承ください。
※会員ログインが必要です。



プライベートセミナーのご案内

先着順
各日程**10名**
限定

点滴療法ベーシック フォローアップセミナー 『導入』と『継続』

～ご挨拶～

「ベーシックセミナーI」を受講いただいた先生方より、点滴療法導入後の不安や、疑問点、もっと学びたい等の声が多数寄せられています。

そこで、導入のポイントや患者様が継続して通院したくなるコツを学べる、「導入」と「継続」を目的としたフォローアップセミナーを開催することが決定しました。

できる限りのご要望にお応えするため、事前アンケートを行います。導入への疑問点や不安点を解消し、明日から実践いたしましょう。

皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

点滴療法研究会マスターズクラブ
会長 柳澤厚生



本セミナーの目的

点滴療法を自院にスムーズに導入、活用できることを目的とします。ベーシックセミナーIで学習した、「高濃度ビタミンC点滴」・「マイヤーズカクテル点滴」・「グルタチオン点滴」を中心に、メニューのコツ、応用のコツ、集患のポイント、スタッフとのコミュニケーション法等々、導入前や導入後の不安を解消するため、事前アンケートをもとに、参加者の先生方の疑問にお答えします。

開催日時

2024年7月28日(日) / 11月10日(日)
13時20分から16時00分(受付:13時)

開催場所

東京 ※決まり次第ご案内します。

対象

点滴療法研究会マスターズクラブ会員 医師・歯科医師

受講費

66,000円(税込)

お申込み方法

右記QRコードより該当セミナーをお選びいただきお申込みください。

※定員になり次第お申込みは終了とさせていただきます。
尚、7月開催に関しましては6月末、11月開催につきましては10月半ば時点で参加人数が5名に満たない場合は中止の場合がございます。





アロリエクリニック 院長 市川りえ先生

【経歴】
H7年東邦大学卒業
東邦大学大橋病院産婦人科に8年勤務
大学では婦人科一般、腫瘍をメインに治療
その後、山梨にある産婦人科や都内クリニック
勤務を経て、昨年5月にアロリエクリニックを開業

クリニックに導入している 点滴療法

- 高濃度ビタミンC点滴
- マイヤーズカクテル
- グルタチオン点滴
- αリポ酸点滴
- NMN点滴



クリニック外観

クリニックの特徴

当院は基本は婦人科ですが、保険診療のみというより、どちらかというと女性の病気になる前のカラダ作りに重きを置いています。できるだけ薬に頼らずに楽しく人生を送っていききたい方々を応援したいと思っておりますので予防医療に力を入れ、自分の体をメンテナンスできるクリニックを目指し、サプリメントなどを活用した栄養療法にも力を入れております。

患者さまへの告知方法

2023年の開業と同時に点滴療法を導入しました。告知方法としては院外向けにはホームページに記載したり、スタッフにSNSを更新してもらったりして。院内ではポスターや点滴療法研究会のデジタルサイネージとリーフレットを活用し認知度の向上に努めています。また、スタッフや私から患者様へのヒアリングを通して点滴をオススメすることもあります。

点滴療法を導入するきっかけ

分子栄養医学を学んだ時に点滴療法のことを知りました。サプリメントだけではなく点滴療法も取り入れることで診療の幅が広がると思ったのが導入したきっかけです。

栄養療法もですが点滴療法に関しても、まだまだ世の中に知られてないのが事実かと感じてます。私自身、数年前までかなりジャンキーな食生活をしていましたが、家族の体調などがきっかけで食生活が変化、そこからオーソモレキュラー療法と出会いました。

得意とする点滴療法

当院は婦人科クリニックですので、女性向けのメニューが中心です。(フォトフェイシャル、フェムケア、鍼灸等) 当院ではこういった婦人科メニューと点滴療法を組み合わせ提供することが可能です。

例えば、フォトフェイシャル×グルタチオン点滴など、身体の外側からと内側からケアいただくことが可能です。点滴をしながらデトックス足湯を受けることも可能です。

このように点滴療法と婦人科メニューを同時に提供できるのが当院の特徴だと捉えています。

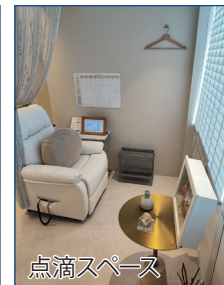
気をつけていること、心がけていること

定期的にお越し頂けるように、サロンのような通いやすいクリニックを目指しており、患者様になるべくリラックスしていただくことを心掛けています。例えば、ハーブティを提供したりアロマを焚いたりBGMもリラックスいただけるような選曲をしています。

点滴スペースは2席ご用意してますのでご友人やご家族で点滴をすることも可能です。



処置室



点滴スペース

アロリエクリニック

■公式サイト <https://alolie.com>
■責任者 市川りえ
■所在地 〒141-0022 東京都品川区東五反田5丁目27-5 5セントラルビル 6階

■診療時間 10:00~13:00 14:30~18:00
■休診日 木曜日、日曜日、祝日



点滴療法研究会

高濃度ビタミンC点滴療法 認定医制度



認定医制度とは

点滴療法研究会では、国民に安心して高濃度ビタミンC点滴を受けていただくため、正しい知識を持った会員医師に認定医資格を設けています。現在、約500名の方が認定医資格を取得しております。
(2022年1月現在)



認定証を発行。
安心して患者様に
選ばれる医院に



当会が質を保証する認定証を発行。自院等でもご紹介いただけます。

※額縁は別売です。

クリニック検索で
上位表示されるから
集患効果アップ



当会のホームページにおけるクリニック検索でご紹介。検索時に優先的に表示されます。

受験案内 (年1回開催)

2024年12月8日(日)

■会場：東京

会員サイトの
認定医ページはこちら▶



資格

- マスターズクラブ会員であること
- ベーシックセミナーⅠの受講
- ベーシックセミナーⅡの受講
- 高濃度ビタミンC点滴療法認定医講習会の受講

※注意 マスターズクラブを退会すると認定医資格はなくなります。

他にも2種類の認定医制度をご用意しています。 **オンライン開催**

キレーション療法 認定医

受講期間

2024年6月27日(木)
~7月27日(土)

オゾン療法 認定医

受講期間

2024年7月24日(水)
~8月24日(土)

2024年7月28日(日)

2024年8月25日(日)

点滴療法導入から定着への 3つのステップ

点滴療法をクリニックの定番メニューとして定着させるためには、先生やスタッフの知識・技術向上に加え、患者様への訴求強化も重要なポイント。点滴療法の導入から、患者様への認知拡大・集患まで、特に重要な3ステップと当会の提供サービスをご紹介します。是非ご活用ください！

STEP
01

正しい点滴療法を提供しよう

ベーシックセミナーを受講しましょう。

スタッフ教育サポートとして「点滴手技マニュアル」や「点滴手技動画」もオススメです。



STEP
02

患者様からの認知を高めよう

点滴療法研究会の
クリニック検索サイトに
情報を登録しましょう。



会員の
7割が
活用中!

【掲載条件】
ベーシックセミナーⅠ
受講済みで当会の会
員であること

ログインはこちら



患者様の半数以上が前もってクリニックをWEBで検索するというデータがあります。WEBの活用はクリニックを知ってもらう第一歩です。

年間検索数
8万回
以上

会員限定
無料
掲載

STEP
03

さらなる認知拡大を目指そう

詳細ページ作成で
さらに集患力を
高めましょう。(有料)

見つけて
もらいやすい!
検索上位
表示可能に



【掲載内容】
院内写真/医院の特徴/ドクターインタビュー/治療へのこだわり/患者様へのメッセージ/アクセス情報など

お申し込み
ご相談はこちら



興味をもった患者様を逃さないためにも、更に詳しい内容を掲載することは大切。院内の雰囲気や先生のこだわりを掲載することで、患者様がより安心して受診できるよう、後押しします。

制作費 45,000円(税込)

掲載費 0円 ※掲載は会員期間中に限ります。

お申込・ご登録方法など、ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

Mail : info@iv-therapy.jp TEL : 03-6277-3318

会員サービスのご案内

会員サービス一覧

様々な会員サービスをご用意しています。
ぜひ、ご活用ください。

認定医制度

- ・高濃度ビタミンC点滴療法認定医
- ・キレーション療法認定医
- ・オゾン療法認定医

学習サポート

- ・症例・論文
- ・医学情報の提供
- ・会員専用Q&A
- ・動画学習
- ・セミナー優待
- ・学習コラム配信
- ・他学会連携

国際オソモレキュラー医学会
日本オソモレキュラー医学会
国際個別化医療学会

クリニック運営サポート

- ・クリニック検索一覧掲載
- ・クリニック詳細ページ作成サービス
- ・集患サポートパック
- ・点滴療法同意書ダウンロード
- ・リンク用バナー配布
- ・オンラインショップ
- ・書籍掲載
- ・会員証発行

クリニック運営サポート スタッフ教育・集患・販促強化

点滴療法の提供体制の構築から、集患や院内販促まで！
クリニックの運営をサポートする商品・サービスをご提供

スタッフ教育

先生方や医療スタッフ向けサポート教材

手技マニュアル



【全99ページ】
点滴バッグの準備から穿刺までの一連の流れやコツを詳しくカラー写真の図解で解説。

手技動画



※USBフラッシュメモリにて頒布
点滴療法をこれから導入する先生や、スタッフの方を対象に、高濃度ビタミンC25g点滴の作成と手技の一連の流れやコツを解説。

- 穿刺のコツ・血管の選び方
- ミキシング・プライミングのコツ
- 点滴中のおこりやすいトラブル
- 点滴療法の質を上げるコツ

集患強化

クリニック検索サイト

クリニック検索掲載 & 詳細ページ作成

自院の認知拡大・集患に！



年間検索回数
80,000回以上！

当会ウェブサイトのクリニック検索一覧にて自院の情報を詳しく掲載。点滴療法を受けたい患者様への強力な訴求ツール。

院内販促

待合室などで患者様の興味と理解を喚起！

リーフレット

(+掲示用A3ポスターつき)



- 全6種 [高濃度ビタミンC点滴療法(がん治療版or美容・アンチエイジング版) / マイヤーズカクテル点滴療法 / 歯科医院における点滴療法 / グルタチオン点滴療法(美容・パーキンソン病版)]
- ゴム印・シール貼付スペースあり

院内販促動画

デジタルサイネージ

点滴療法の興味と理解を喚起！



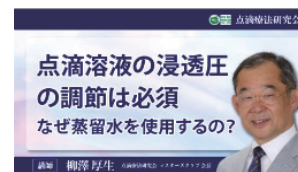
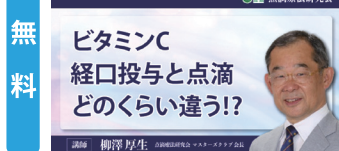
- 高濃度ビタミンC点滴療法(がん治療版)
- 高濃度ビタミンC点滴療法(アンチエイジング版)
- マイヤーズカクテル点滴療法
- 歯科医院における点滴療法
- グルタチオン点滴療法 (美容版) **NEW!**

会員限定 オンラインショップにて販売中!

学習サポート

動画学習

スタッフ教育にもオススメ!



動画一覧はこちら

学習サポート

症例・論文

会員サイトでは点滴治療に関する症例やエビデンスを紹介しております。

閲覧には、
ログインが
必要です。



「症例から学ぶ」 掲載例

- 「高濃度ビタミンC点滴療法 高濃度ビタミンC点滴療法が奏効した2症例」 健康増進クリニック 院長 水上 治 先生
- 「オゾン療法 線維筋痛症、気分障害、不安障害」 鎌倉元氣クリニック 院長 松村 浩道先生

「論文から学ぶ」 掲載例

- 「高濃度ビタミンC点滴療法に関連する代表的な基礎研究」
Ascorbate regulates haematopoietic stem cell function and leukaemogenesis *Nature*(2017) doi:10.1038/nature23876
- 「グルタチオン点滴療法に関連する論文」 Anti-cancer effect of pharmacologic ascorbate and its interaction with supplementary parenteral glutathione in preclinical cancer models. *Free Radic Biol Med.* 2011 Aug 1;51(3):681-7

information

点滴療法研究会推奨の点滴製剤・試薬のご案内

ビタミン C

Ascorbic Acid Injection

マイラン社

高濃度ビタミンC点滴（10g以上）には、防腐剤が入っていない安全なビタミンC製剤が必要です。国産の製剤は、防腐剤が入っているため適しません。また、ビタミンCは温度変化によって不安定になるため、製造工場からクリニックまで2~8℃の冷蔵保管が義務づけられています。当会では、冷蔵空輸にて日本に出荷される安全なマイラン社製のビタミンC製剤を推奨しています。

資料請求は
コチラ



NMN

完全β-NMN

一般社団法人
NMN 医療研究会

NMNには、分子構造の異なるα-NMNとβ-NMNの2種類が存在し、人体で生成され、有益な効果を持つのはβ-NMNのみとされています。Bio Umbrella社のNMN製剤は、完全殺菌環境を作り出すために製造毎にオゾンガスを使用した殺菌を行い、粉塵・細菌が存在しない環境で製造し、保存液も一切使用していない純粋なβ-NMN製剤です。

※原料元：ミライラボバイオサイエンス（株）

※試薬でのご提供

資料請求は
コチラ



エクソソーム

M2P-Exosome™

AZACLI

エクソソームに内包されている無数のマイクロRNAによる細胞老化の修復や慢性疾患等のリスク低減について、大学等研究機関で研究が進んでいます。

当会では先生方の研究に使っていただきやすい試薬として提供しております。

※試薬でのご提供

お問い合わせは
コチラ



グルタチオン

台湾製グルタチオン

TAI YU CHEMICAL &
PHARMACEUTICAL 社

昨今、国産グルタチオン製剤の流通が制限されている状況から、安全な日本製原料を使用した台湾製グルタチオン製剤をご紹介します。製薬会社である、TAI YU CHEMICAL & PHARMACEUTICAL社製のグルタチオン製剤は、台湾で薬として国に認可されています。

※ご購入は、AOB MEDICALのウェブサイトより、会員登録（無料）が必要です。

ご購入は
コチラ



NAD+

NAD+ Injection

NAD CLINIC 社

ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド（NAD+）は、抗老化において主要な重要性を持つとされており、これまでにコネキシン43（様々な組織）およびP2X7ゲートドチャネル（神経細胞）を介して細胞内に直接入ることが示されており、点滴でNAD+直接補充しNAD+レベルを上げていくことでエネルギーの増加や代謝改善、認知機能向上、長寿やアンチエイジングなど効果として期待されています。

※試薬でのご提供

お問い合わせは
コチラ



価格・最低発注個数などの詳細はこちらから ▶



会報誌の内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。

[発行元] 点滴療法研究会 [発行月] 2024.4

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-23-13 アルカイビル4F / Tel: 03-6277-3318 / E-mail: info@iv-therapy.jp